

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

下川 公一郎
熊本県トラック協会会長
「ドライバーファースト」で24年問題対応へ

10 2023
月号
VOL.508

県内企業誘致

「半導体」活発 台湾企業進出も加速
インバウンド復活 観光地や宿泊、飲食に“にぎわい”
加速する半導体人材育成／コロナ後のブライダル業界

特
集



中山 峰男
学長

崇城大学

自ら考え学ぶ自律学習に
よる英語教育を实践

グローバル社会で活躍する人材育成を目指し、崇城大学では2018年に英語学習施設SILC（シルク・Sojo International Learning Center）を開設。17名の外国人講師陣からコミュニケーション型の英語を学ぶことができ、キャンパス内での「海外留学を体感できる施設だ。学生一人ひとりにあった実践的な英語学習をサポートするなど、全国の大学の中でも屈指の英語教育環境を誇る。

ル分けした授業に加え、学生一人ひとりが自分に必要な英語力を身に付けるために、自ら考え学ぶ自律型の学習を支援する自律学習センターSALC（サルク・Self・Access Learning Center）としての機能も備えています。施設内には、教材として英語の本やマンガ、映画などのコンテンツが豊富に揃い、外国人講師陣と気軽にコミュニケーションがとれるカンパシーションラウンジなど、生きた英語力を習得するには理想的な環境と言えます。具体的には海外での研究発表や、外資系企業の面接の訓練などでも活用しています」と話す。

今年12月の稼働を目指し、菊陽町で工場建設を進めている世界最大手である台湾の半導体メーカー・TSMCの日本子会社JASM（熊本）に、同大学から昨年度の卒業生12名が内定。社内での公用語は英語と聞いている。グローバル企業ならではの採用基準をクリアし内定を勝ち取れた

要因の一つは、SILCでの実践的な英語力を学生のうちに身に付けたことと考えている。

キャンパス内外で生きた英語を身に付ける

同大学では現在国外38の大学と協定を結び、学生たちの海外留学を奨励。コロナ前には年間300名ほどの学生が海外留学を経験しており、今後は留学400名を目標にしている。「価値観や習慣が大きく違う海外の学生との交流や、その土地の風土に触れることで、学生達は語学力だけでなく国際感覚や異文化コミュニケーション能力を高めることができる。同時に、それまでの自分の殻を破ることで人間としても大きく成長できると感じています」。

一方で、海外からの留学生受け入れにも積極的に取り組んでおり、今年度は協定校であるマレーシアのペトロナス工科大学から8名の交換留学生を受け入れたほか、香港やフランス、オーストラリアなどからも交換留学生を受け入れた。産学官連携事業の一環で諸外国の学生を日本へ招き科学技術分野の交流を図る「さくらサイエンスプログラム」の取

り組みも行っており、今年はメキシコのメトロポリタン自治大学およびマレーシアのペトロナス工科大学から学生の短期受け入れを実施した。

中山学長は「コロナ禍で留学が停滞していたが、海外からも数多くの留学生が本学のキャンパスで学ぶ姿を見ることができ、留学経験を持つ学生が増え、大学のグローバル化が進んでいくと思う」と、これからの未来に期待を寄せた。



▲SILCで、学生の英語力向上をサポートする講師陣

工学部 宇宙航空システム工学科
宇宙航空システム専攻

乗峯 さん

**TOEIC®で
ハイスコアを達成**

工学部
機械工学科

押領司 さん

**「学生フォーミュラ」で
車両製作に熱中**

ワタシの大学物語

大学院 工学研究科
応用化学専攻

篠田 さん

**熊本県公立中学校
理科教諭に合格**

大学院 工学研究科
応用生命科学専攻

中畑 さん

**株式会社P&A
代表取締役社長**



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

そうじょう大学 検索

- 薬学部
- 生物生命学部
- 工学部
- 情報学部
- 芸術学部

〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1